

北大病院に入院し超音波検査を受けた患者さんまたはご家族の方へ

(臨床研究に関する情報)

北海道大学大学院 超音波センターでは、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、北大病院において、通常の診療で得られる診療記録や検査結果を分析することによって行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和4年3月10日一部改正)」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の連絡先へご照会ください。

[研究課題名] 幅広い心疾患患者に適応可能な非侵襲的右房圧評価法の確立とこれを用いた肝臓のうっ血および予後の予測

[研究機関・長の氏名] 北海道大学病院 渥美 達也

[研究責任者名・所属] 加賀 早苗(北海道大学病院 超音波センター / 北海道大学大学院 保健科学研究所・准教授)

[研究の目的]

心臓病は、悪性新生物(がん)、脳血管疾患(脳卒中)と並ぶ日本人の三大死因のひとつで、世界の中でも類まれな高齢化社会を迎えている日本において急増しています。心臓病の大半に關与する心不全の程度や治療効果の正確な評価には、体に管を入れて検査を行う心臓カテーテル検査が用いられます。一方、心臓カテーテル検査は多少ともリスクを伴う侵襲的な検査であるため、日常の心不全の管理には、非侵襲的な超音波検査(エコー検査)がよく用いられます。しかし、いまだに精度が高く簡便で、幅広い心疾患の患者さんに対して使用できる心不全の評価法は確立されておらず、新たな指標の開発が試みられています。そこで、私たちは、これまであまり注目されていなかった上大静脈に注目し、上大静脈の血液の流れを解析することにより、いろいろな心疾患の患者さんの心不全の程度を評価することができないかと考えました。この上大静脈血流を用いた新しい心不全の評価法により心内圧の情報を精度よく推定できれば、心不全診療の質の向上につながります。

[研究の方法]

対象となる方

2018年4月から2030年3月31日の間に、北海道大学病院に入院し、心臓カテーテル検査とエコー検査が行われた患者さん。

利用するカルテ情報

1. 診療記録から、年齢、性別、身長、体重、診断名、病歴、身体所見、血液生化学的検査結果、血漿中の脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)濃度、N末端プロB型ナトリウム利尿ペプチド(NT-proBNP)、臨床経過ならびに治療内容を調査させていただきます。
2. 入院中のエコー検査記録から、一般的エコー指標に関する情報、上大静脈の血流情報を調査さ

せて頂きます。また、心臓カテーテル検査記録を用いた調査を行います。

[研究実施期間]

病院長による実施許可日～2032年3月31日（登録締切日：2030年3月31日）

[個人情報の取り扱い]

この研究に関して、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

本研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、ご住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果を学会や学術雑誌などに発表する予定ですが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[連絡先]

札幌市北区北12条西5丁目

北海道大学大学院 保健科学研究所・准教授 加賀 早苗（研究責任者）

電話：011-706-3403